

平成 25 年度第 1 回「墨田区子ども・子育て会議」・ 「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」議事要旨

日時：平成 25 年 8 月 23 日（金）午後 6 時 30 分～8 時 38 分

会場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）

次 第

- 1 開 会
- 2 区長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 会長及び副会長選任
- 5 議 題

議 題	資料 No
(1) 「墨田区子ども・子育て会議」及び「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」概要説明	2・3・4・5・6
(2) 墨田区子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査の実施について	5・6・7
(3) 墨田区次世代育成支援後期行動計画の平成 24 年度事業実績・平成 25 年度事業計画について	5・8
(4) 年間スケジュールについて	5
(5) 墨田区保育所整備指針について	9
(6) 待機児童解消加速化プランについて	10
(7) その他	

6 次期開催予定

日 時：平成 25 年 10 月 7 日（月）午後 6 時 30 分～8 時 30 分

会 場：すみだリバーサイドホール会議室

議題予定：ニーズ調査票（最終案）の提示等

7 閉会

配布資料

- 資料 1 平成 25 年度「墨田区子ども・子育て会議」及び「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」委員名簿
- 資料 2 墨田区子ども・子育て会議条例
- 資料 3 墨田区附属機関の設置に関する条例
- 資料 4 子ども・子育て支援法に基づく基本指針（案）
- 資料 5 第 1 回「墨田区子ども・子育て会議」及び「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」資料
- 資料 6 国の子ども・子育て会議資料（抜粋）
- 資料 7 墨田区ニーズ調査票（案）
- 資料 8 墨田区次世代育成支援後期行動計画（平成 22 年度～平成 26 年度）平成 24 年度事業実績

資料 9 墨田区保育所整備指針

資料 10 待機児童解消加速化プラン

出席者（敬称略）

○委員

大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科准教授）

野原 健治（興望館館長）

西島 由美（にしじま小児科院長）

鈴木 寛子（あさひ幼稚園副園長）

服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）

財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）

野口 悦子（主任児童委員）

工藤 和俊（小学校 P T A 協議会会長）

早川 和宏（中学校 P T A 連合会会長）

内田 淳（青少年委員協議会委員）

森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）

賀川 祐二（N P O 法人 病児保育を作る会代表理事）

本多 美絵子（両国幼稚園副園長）

貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）

佐藤 摩耶子（公募）

荘司 美幸（公募）

多胡 晴子（公募）

福田 三加代（公募）

藤方 洋子（八広幼稚園長）

岡墻 克純（両国小学校長）

長谷川 晋也（文花中学校長）

青塚 史子（太平保育園長）

<欠席委員>

高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）

長田 朋久（横川さくら保育園長）

小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）

金子 里美（N T T 労働組合東京総支部執行委員）

佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）

徳野 奈穂子（公募）

○部課長出席者

中橋 猛（保健衛生担当部長）、大滝 信一（福祉保健部長）、関口芳正（子育て支援担当部長）、小倉 孝弘（子育て計画課長）、鈴木 一郎（児童・保育課長）、内田 正代（子育て支援総合センター館長）、前田 泰伯（教育委員会事務局次長代理生涯学習課長）

○事務局出席者

浦辺、田村、松田、遠藤、松本

○事務局（株ぎょうせい）

黒澤・中村・奥内

1. 開 会

事務局 開会

第1回墨田区子ども・子育て会議・墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会を開催する。両会議は原則公開であり、本日は傍聴希望者があるので了承いただきたい。

また写真撮影、録音をさせていただくので了承いただきたい。

区長

暑い中、また、天候の悪い中、出席いただき感謝する。

皆様には日頃から子育て支援をはじめ児童福祉に多大なお力をいただき厚く御礼申し上げます。また委員をお引き受けいただき心から感謝する。

本来ならば委員一人ひとりに委嘱状をお渡しすべきではあるが、時間の都合等により机上配置としたのでお許し願いたい。

子ども・子育て関連3法が制定され、平成27年度から新しい取り組みが行われることとなった。円滑な導入が行われるよう、総合的、計画的な推進に関する様々な事項についてご意見をいただき推進していきたいと考えている。新制度の導入に向けた子ども・子育て支援事業計画の策定について、忌憚のない意見をいただきたい。

区では平成17年に次世代育成支援行動計画推進協議会を設置し、次世代育成に関する基本計画を策定して施策を実施してきた。本日はその進捗状況も報告することになる。

待機児童解消が大きな社会問題になっている。区でも待機児童問題が起こっており、喫緊の課題として対応し、待機児童ゼロを目指していく所存である。

一方、親の立場に立てば待機児童の解消は喫緊の課題ではあるが、それが子どものためにいいことなのかあわせて議論していく必要があると思う。女性・男性の働く環境を整え、ワーク・ライフ・バランスも考えていかないといけない。

墨田区の子どもの様々の施策を展開させるためにご意見をいただきたい。よろしく願います。

事務局

区長は所用により退席する。

（机上に配布した委員名簿の順で紹介）

28名の委員の半数以上が出席し、定足数を満たしており、本会議は有効に成立していることを報告する。

両会議で議論を進めるにあたり、条例等に基づき会長、副会長を互選いただきたい。両会議体とも同じメンバーで構成されているため、選任された方は両会議体の会長、副会長を

兼任していただきたい。

会長の選任についてご意見等はあるか。

委員

玉川大学教育学部乳幼児発達学科准教授の大豆生田先生を推薦したい。

異議なし（拍手）

事務局

委員長として大豆生田先生を承認いただいた。副会長の選任についていかがか。

委員

野原委員を推薦する。

異議なし（拍手）

事務局

会長、副会長に進行いただくため席を用意する。お待ちいただきたい。

（準備）

会長にご挨拶いただきたい。

会長

会長にご指名いただいた。よろしく願います。

子育て支援・保育幼児教育の実践研究を専門に行っている。大きな会議となるので、皆様に意見をいただきながら進めさせていただきたい。

副会長

次世代育成支援行動計画の前期、後期計画の策定に携わったことによる推薦だと思う。今回はより広く深くなると思うので、今までの計画からの提案等ができればと思う。

事務局

ここからは進行を大豆生田会長に願います。

会長

議題（１）「墨田区子ども・子育て会議」及び「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」の概要説明を事務局に願います。

事務局

資料２～６を説明

資料３（次世代育成支援行動計画推進協議会）附属の機関を説明

会長

質問のある方は挙手をお願いします。

この会議は「子ども・子育て支援法」に基づく地方版の子ども・子育て会議であることの説明をいただいた。

（質問なし）

議題（２）墨田区子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査の実施について事務局に説明をお願いします。

事務局

資料５（Ｐ９）、資料６、資料７について説明

資料が膨大であるので、最後の頁に意見をいただく用紙を作成した。ニーズ調査について意見があれば、９月４日（水）までにファックス等で提出いただきたい。メールアドレスを登録されている委員には様式をメールさせていただく。

国の資料１～５について説明

会長

質問ある方は挙手をお願いします。

委員

区内の就学前の子どもの保護者は全体で何件あるのか。それ以下の調査もすべて同じことを質問する。

就学前調査は無作為抽出が簡単だと思うが、小学生の保護者は区内の小学校に通っていない子どももたくさんいると思う。そういう子どもに当たった場合は除外するのか、高校生は区内の高校に通っている高校生なのか、区の住民に聞くのか教えて欲しい。

事務局

各対象者数について、就学前の０～５歳は約１１，５００人、小学生の６～１１歳は約１０，１００人、中学２年生は約１，８００人、成人前の１５～１９歳は約８，６００人である。

高校生については墨田区内の高校に訪問し、校内でインタビューを実施する予定。区外の

高校生はヒアリング対象としない。案であるが、中学校も区内公立中学校の2年生をクラス単位で学校を通じて調査を依頼して実施する予定だ。

委員
事務局

すべての中学校の1クラスずつと考えてよいか。

すべての公立の中学校が対象で、複数のクラスがあった場合は学校が1クラスを選んで行うことになる。

委員

墨田区は地域差が激しいので、中学校、小学校、保育園でニーズが違う。そのため選び方を聞いたかった。特別な支援が必要な子どもはどういう風に対象にするのか。

事務局

案として、施設に通っている障害者の保護者に協力いただければ、依頼する予定。

委員

年齢はどうか。対象は特別支援学校なのか、小さい子か大きい子なのか、成人か。

事務局

ニーズ調査を優先しているので詳細はまだ決めていない。第2回でニーズ調査を協議いただいた後、秋から冬にかけてヒアリングを行う予定。

会長

墨田区内では地域によって差があることが背景にあるという質問だと思うが、今の事務局の説明でよろしいか。

委員

住んでいる地域でも高層マンションと長屋ではニーズが異なる。住所は設問にあるが、住居形態も設問したらどうか。個人的な案である。

会長

今の件に関していかがか。

おそらく今日の会議ではここが一番のポイントだと思う。

委員

それは収入差によって問題が異なることを把握する必要であるということか。

委員

住居形態はたぶん年収と関係している。それによって回答が異なるのではないかと思っただけだ。

会長

アンケートの結果が根拠となるので重要であると思う。

委員

就学前や小学生の保護者には聞くのに、それ以上の学年の保護者には聞かないのはなぜか。

事務局

自身では判断がつかない年齢層は保護者に書いてもらう。この調査は子どもを保育している保護者を主として対象としており、成人前の子どもの保護者は対象としていない。

会長

他の意見はいかがか。

委員

就学前の子どもの保護者は2,000票配布で、対象者が約11,500人なので、5~6人に1人くらいでアンケートをするということになる。マーケティングをやっているので、この票数はかなり多いと思う。それはすばらしいことだが、郵送法の調査なので、どれくらい回収されると想定しているのか。10分の1ならデータとしてギリギリいくと思うが、それ以下なら距たりが出ると思う。

事務局

前回調査を参考に就学前の場合60%を想定、小学生も60%を想定、中学生は学校単位なので85%を想定している。15歳から19歳は30%を見込んでいます。

抽出率について国に確認したところ、自治体に対し、母数に対する抽出率は示さないとのことだ。

委員

よくわかった。

会長

ほかに質問はないか。

委員

設問が多いので、乳幼児の保護者や乳幼児がいる小学生の保護者は書くのがはたいへんかと思う。回答についていろいろな質問が区役所に来ると思うが、フォローはどうするのか。

事務局

委員ご指摘の通り、質問量があり、頁も16頁で、丁寧に回答するには通常で約1時間、直感的に回答しても30分かかると思う。質問数が多いことによって回収率が下がることが想

定されるが、国が示す任意事項も盛り込んでおり、区の独自設問もあって設問数はかなり多くなった。工夫としては、わかりやすいよう矢印を施し、空白にはイラストも入れる予定だ。問い合わせについては区事務局の電話番号も入れ、質問内容がわからない場合にも丁寧に対応する。また、アンケートを送付する際に、区の事業説明も同封する。さらに、個人名は記載しないので、配布者全員にお礼と返信協力依頼（ご案内）を送付する。

委員 質問量が多くなることはとてもいいと思う。書く時間が難しいことなどが想定されるので、他区で行っているような、みんなで書く場所をつくることは考えていないのか。

事務局 参考にしたい。場をつくることによって情報交換しながら書けるというメリットもあるが、プライバシーの問題も留意したい。

会長 ニーズ調査は国が雛形をあげているのでそもそも設問数が多い。さらに任意項目もあげており、区独自の項目もある。区独自の項目はどれが該当するのか。

事務局 資料7のA3版の表にある。必須は黄色のマーカー、任意は括弧任意とある。

15番の保育・教育施設等の満足度は国にはない設問である。

32～56番については区独自の設問で国が指示している内容ではない。

会長 よろしいか。

委員 中高生まで調査があるが、これから結婚する人はどうなのか知りたい。国の調査ではないが、肝心の意見だと思う。

事務局 資料7のA3版の表で、③の成人前調査で、将来のことで結婚観、家庭観、結婚について、子どもを持つことについて、女性のライフコースの選択、パートナーとの協力関係、墨田区への愛着度について聞いている。

会長 ということは含まれている回答になるが、意見があればどうぞ。

委員 そういうことであればいいかとも思うが、大学生以上の年齢層の意識の変化についても聞くことが必要なのではないかと思った。

会長 よろしいか。

委員 今の質問はいいアイデアだと思った。うちには23歳と21歳と19歳の子どもがいるが、この質問には誰も答えられない。これからのことを考えるのなら、これから子どもを生んで欲しい人のことも聞いたらいいと思う。そうした視点があったことに気づいたのでぜひ検討していただければいいかと思う。

会長 そもそも調査の意図は何か。

事務局 ①の就学前の調査だけが国が指示する調査で、②③の調査は実施しない自治体が多い。墨田区では前回、中学生、高校生等の調査を行ったので、今回も実施することとした。委員ご指摘の20～30歳代調査は国の制度の範疇外になると考える。

会長 この調査結果から、今後の墨田区の事業をどうするかを考えることに関わるので丁寧に協議した。

アンケートはどこに配布するのか、調査項目はどうか。ただし、これは国で決めているものもあるし簡単には変えられない。墨田区としてどれだけプラスアルファしていくか。量的にも多いのであれもこれもというわけにはいかないだろう。

9月4日までに事務局にメール、郵送等で意見をいただきたい。その後、事務局と会長、副会長で最終案を作成して次回の会議に出す予定だ。

そういうことでよろしいか。

(異議なし)

議題(3) 墨田区次世代育成支援後期行動計画の平成24年度事業実績・平成25年度事業計画についてについて事務局の説明をお願いします。

事務局

資料5、8を説明

会長

質問のある方は挙手をお願いします。

(質問なし)

議題(4) 年間スケジュールについて説明をお願いします。

事務局

資料5のP10を説明

資料4のP36を説明

会長

質問のある方は挙手をお願いします。

委員

10月スケジュールについて、7日にニーズの調査票(案)の検討をこの会議で行い、配布回収が同月内となっている。会議で変更があった場合にその反映は間に合うのか。

事務局

本日の委員の意見を踏まえ、今後寄せられる提案について、事務局、会長・副会長と協議し、第2回会議では最終案的なものを示したい。10月7日に調査票を確定していただく。3月までに事業量を都に報告するにはスケジュールがタイトであるからだ。

委員

委員から事務局へ出した要望とそれに対する会長・副会長の協議内容をつけて、次回に提出してもらえるのか。

事務局

委員からどれくらいの意見があがるかわからないので、次回の資料について方針は決めていないが、委員名は匿名にするにせよ、委員からどういう意見があがったかはあげるように考えている。

会長

アンケートがどういう経緯でそうなったのかを示す事が大事だと思う。絶対量の問題があるので優先順位が出ることは推測できる。

このことについてよろしいか。

(異議なし)

議題(5) 保育所指針について事務局に説明をお願いします。

事務局

資料9を説明

平成25年4月現在の待機児童は181名である。

会長

質問のある方は挙手をお願いします。

(質問なし)

議題(6) 待機児童加速化プランについて説明をお願いします。

事務局

資料10について説明

会長

質問のある方は挙手をお願いします。

副会長

今後の提案をしたい。本日は事務局主導で進めており、子ども・子育て会議とは何かとの説明、どこが次世代計画と違うのか、どういうところを重点的に協議するのか、スケジュールについて事務局から説明があった。時間がない中でどれだけの量をこなすのか、会議の特性と協議の仕方と委員それぞれの期待される役割は何かを考えて出席されていると思う。

第1回の会議で全貌を明らかにする必要がある。次世代計画を初めてきく委員もいるだろう。次世代計画の事業の内容、成果や課題は何か、この会議との関係は何かについて、今日の話聞いて次世代計画との関係が濃いことがわかった。よってそうした観点から考え

ていくことになる。

もう1点、計画を策定することが目的であり、策定の期限も示された。そのためにまずアンケート調査を行うこともわかった。アンケートの設計について検討が必要だ。アンケートや方法論についても意見をいただいたので時間をいただき、事務局と協議したい。場合によってはスケジュールを前倒しにする、あるいは必ず必要もあるかと思う。大豆生田先生は乳幼児等に高名な先生なので、どうやって会議を動かすのか、子どもの特色などをうかがい、5回の会議の中で山場は何か、どこまで目指すのか明確にしたい。

事務局、会長と相談し、委員の皆様にお知らせしながらやっていく必要があるのかと感じたところだ。会議運営についての意見を聞いたらどうか。

会長 副会長からの提案があるが、いかがか。なお、私からの説明はない。

委員 これまでは分科会を設けて検討してきた。今回はそういうことは考えていないのか。

副会長 服部委員の意見には賛成である。しかし分かれられないようにし、集中的な作業部会の方が会議は内容があるものになるのではないか。

会長 いただいた意見をどう反映できるかも含めて関係すると思うので、事務局から説明願いたい。

事務局 他の自治体では次世代の協議会を廃止し、子ども・子育て会議1本で行っているところが多い。墨田区では児童部会、乳幼児部会に分かれて、中学生以上の青少年健全育成、中学生の居場所などを中心とした部分、保育園・幼稚園や学童クラブにどう取り組むか等、熱心に議論したり現地を調べたりしてきた。そうした経緯を踏まえ、墨田区独自の特徴ある会議であったので大事にしたいと考え、次世代の協議会を残すこととし、子ども・子育て会議を兼務していただくようにした。分科会を設置することは次世代育成支援行動計画の原則かと思う。この会議は次世代の会議も兼ねているので、今後、分科会を設置して取り組むことも大事だと思っている。

ただし、国から基本指針が示され、平成27年から始まる事業計画の策定、新制度の下での学童クラブの基準づくり、保育所入所基準の見直しなどが自治体に求められている。これらを1年半の中でやっていかなければならないので、子ども・子育て会議の部分にかなりのエネルギー・時間が使われるのではないかと思われる。

しかし、これまで取り組んできた中学生の居場所づくりや青少年健全育成の部分も並行して進めて行かればと思っているので、どこかの段階で分科会をつくっていければと思う。会長、副会長と相談しながら進めてきたい。

委員 今回は子ども・子育て会議がメインであることがわかった。時間的に余裕がないのでこうした会の進行となったこともわかった。効果的に進めていくために読み解き、解説も必要だ。事務局との打ち合わせをさせてもらいたい。

会長 大きなメンバーなので、分科会方式も可能な範囲で随時行ってほしい。事務局も可能だといっている。皆様の意見が反映されるよう進めていければと思う。

委員 会議で話し合う大きな目標は、子ども・子育て新制度が区民にとってよいものになること、小さな目標はニーズ調査からうまく拾えることだと思う。そのための役割分担について、公募委員は未就学児をもった親であり、小中学校のPTA会長等との役割分担も含め、ニーズ調査という紙だけでなく、声を拾える場所があるといいと思う。

会長 分科会でそれをどう解釈し施策に結びつけるのかの読み取りも大事になると思う。

野原副会長からあった提案で、皆様の声が反映されるようにしたい。ニーズ調査についても意見が多くいただけるようにしたい。場合によっては相談することもあると思うので理解願いたい。

(7) のその他について、次回の会議について事務局に説明をお願いします。

事務局 次回は10月7日午後6時30分、リバーサイドホール会議室にて行う。区役所の方から入ることになるがわかりづらいので、案内の職員を配置する。

会長 事務局からの連絡をお願いします。

事務局 夜分にもかかわらず出席していただき感謝する。2時間を予定していたが延びてしまったことは申し訳ない。いただいた貴重な意見を反映しながら、子ども・子育て会議等を通じて今後の全体の支援施策について検討していきたい。次世代の協議会も一体であるので同じように進めさせていただきたい。意見があれば対応していきたいので意見を寄せてほしい。

3. 閉 会

以 上